

イギリスへ行つて

小五 辻野 祥基

「イギリス」はぼくが行った初めての国でした。初の海外旅行不安だったし、初めての事ばかりでした。その中でも一番心に残っているのは、「ホストファミリーとの生活」です。ぼくは、英語はしゃべれないけれど、ジェスチャーと単語を組み合わせて伝えていました。でもホストファミリーは、一生けん命理解しようとしてくれたし、ぼくたちに伝えるときもジェスチャーと単語で分かりやすく伝えてくれました。イギリスの空手の道場の先生方にもお世話になりました。海に連れて行ってくれたり、道場に連れて行ってくれたりもしました。イギリスに行つてもぼくは色々な国の友達が出来ました。ぼくの先生には

「色々な国の子としゃべれ。みんなといっしょに楽しめ。しっかりと国際交流しろ。」

ということをしていたので「国際交流」という面ではしっかりとクリアできたと思います。こんな素晴らしい経験ができたのは、両親、ホストファミリー、先生、友達、そしてぼくたちにやさしくしてくれた、たくさんのおかげだと思います。たくさんの方がいたからぼくはイギリスに行けたし、笑顔で日本に帰国できたんだと思います。ぼくのことを助けてくれたたくさんの人に感謝しています。本当にありが

とうございました。

イギリスの ホストファミリー ありがとう

初海外 荷物とお金を 守らねば

もう一度 ファイツシュ&チップス 食べたいな

英国武徳祭に参加して

正統無双直伝英信流居合兵法 石本 一平

平成二十五年八月十日に英国武徳祭が開催されました。日本からの一部の参加者を除き、竹田豊団長のもと、八月七日〜十二日迄の日程で英国に赴きました。今回の英国武徳祭では、①日英同盟百一周年を記念してベッジベリ国立公園内に吉野桜の樹を百一本植樹するとともに国際平和と友好の恒久的なシンボルとして記念石碑を設置する事業（八月八日）②武徳会傘下団体の青少年のホームステイ等の各事業も実施されました。

八月九日は、居合・槍術・柔術・剣道形等の講習会があり、各国からの参加者が本部の先生方から各武道の教授を受ける機会があり、参加者は全員熱心に受講していました。特に居合では、柳生心眼流の小林信之先生に教授を受ける参加者を多く、海外で同流に関心をもたれている方が多いと感じました。

八月十日の英国武徳祭では、昨年、各国でお亡くなりになられた指